千葉大学医学部附属病院で治療された 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2024年3月25日

婦人科

婦人科では、「子宮頸がんの同時化学放射線療法中に発症する低ナトリウム血症の頻度と原因を考察する後方視的研究」に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2018年1月1日～2022年12月31日の間に子宮頸がんに対して、シスプラチン併用同時化学放射線治療を行った患者。

1. 研究課題名

「子宮頸がんの同時化学放射線療法中に発症する
低ナトリウム血症の頻度と原因を考察する後方視的研究」

2. 研究期間

2024年承認日～2024年12月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

子宮頸がんの標準治療の一つであるシスプラチン併用同時化学放射線治療では、しばしば低ナトリウム血症（血液中のナトリウムが低下する病態）を発症します。ほとんどの場合は、放射性腸炎による下痢が原因と考えられますが、まれにシスプラチンの副作用によりバゾプレシン分泌過剰症（syndrome of inappropriate antidiuretic hormone, SIADH）が原因であると考えられます。低ナトリウム血症は原因により治療法が異なり、重症化すれば意識障害などを引き起こします。

当院でシスプラチン併用同時化学放射線治療を行った子宮頸がん症例を振り返り、低ナトリウム血症の頻度を調べ、その原因を考察します。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている、ナトリウム値を含む血液検査値、年齢、性別、生活歴（飲酒・喫煙歴など）、職業歴、既往歴、併用薬、家族歴、血液検査値、病期、治療経過など

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：婦人科 助教 羽生裕二

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院婦人科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究についての相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：横手 幸太郎）

婦人科 助教 羽生裕二

043（222）7171 内線6611